

平成22年度第1回大和市総合計画審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成22年5月18日（火） 午後1時40分～午後4時10分
- 2 場 所 本庁舎5階 研修室
- 3 出席者 委員9名
- 4 傍聴人 1名
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ①平成22年度における施策の進行管理スケジュールについて
 - ②「成果を計る指標」の進捗状況について
 - ③その他
 - (3) その他
- 6 会議資料
 - 資料1 : 平成22年度 施策の進行管理スケジュール
 - 資料2 : 第8次大和市総合計画「成果を計る指標」の進捗状況調査
 - 資料3-1 : 「めざす成果」の達成に向けた進行管理シートの記入方法
 - 資料3-2 : サンプル

【議事】

- ①平成22年度における施策の進行管理スケジュールについて

会 長：事務局より説明をお願いしたい。

事 務 局：資料1について説明。

委 員：縮減を検討する事業というのは、各部からの提案を受けるというものか。

事 務 局：「めざす成果」の中で縮減、廃止などについて考えられる事業がないか各部からの提案を受けていく。

委 員：国の事業仕分けを見ても、大抵、担当部は抵抗するものである。このことは、どの組織においても変わることはないと思われる。縮減、廃止する事業を検討することは、各部局からの提案だけでは不十分であり、総合政策課などを中心に政策部局から提案していかなければ成果は上がらないと考える。

事 務 局：各部において毎年行っている事務事業評価では、担当者レベルから改善改革につながる提案が見受けられるものの、結果として改善改革に繋がっていないところがある。今回の取り組みは、この視点を市長まで報告し、対応の方向性を確認したうえで、実際のアクションに繋げていくことを考えている。特に大事なものは、総合計画審議会での審議を予定している。また、担当部署からはなかなか提案しにくいのではないかという点については、政策部内の政策担当課、予算担当課、定数管理担当課、その他人事担当課、広聴担当課からメンバーを集め、検討材料を整理し、各部に投げかけることのできるルートを別途設定したところである。

会 長：庁内検討を行ったうえで、外部評価として総合計画審議会に意見を求められるとのことだが、その際には、縮減についてばかりでなく、拡大や新設についても検討することになる。総合計画審議会での議論は、次の総合計画を見直すまで温めていくこととなるのか。

事 務 局：廃止、縮減についてはより高い意識をもって取り組んでいきたいと考えている。総合計画の方針に従って新しい方策をたて、何らかの事業を充実しなければならないことは十分想定されることであり、施策の進行管理を行っていく中で新規、充実事業についての考え方について各部で整理したものを報告したい。新規、充実については予算が関連するものであり、諮った時点で確定するものではないが、方向性について議論いただき、速やかに対応できるものは翌年度の予算編成に反映し、中長期的なものについては、次の総合計画の見直しの中で反映していく。

会 長：縮減目標を設定して取り組んでいくこととしているのか。

事 務 局：原則的に無駄な事業を実施しているとは考えていないため、廃止できる事業というものがどの程度あるのか不明な状況である。一部縮減というものも考えられることから、具体的な縮減目標については定めてはいない。

会 長：事務事業評価を行う中では、廃止、縮減事業を含め、改善できるものが相当あると捉えているのか。

事 務 局：法定の業務も多数ある中では、必ずしもすべてが縮減ということではない。手法の検討等で、コストをそのままにサービスを充実することができものなど、事務事業評価において50%以上の事業について、何らかの改善を行うこととしている。

会 長：46施策中、15施策程度を今年度議論し、3年間ですべての施策に目を通すということによいか。

事 務 局：そのとおりである。施策の内容によっては、法制度上裁量の余地が少なく、議論いただく必要性の低いものもあるかもしれない。また、行政経営に係る3つの方針について、議論いただく必要もある。議論いただく施策については、緊急性などのプライオリティーを考えながら事務局から報告していく。

会 長：これから3年間の進行管理については、まずは実施してみないと分からない。様々な議論をしながら進めていきたい。

②「成果を計る指標」の進捗状況について

会 長：事務局より説明をお願いしたい。

事 務 局：資料2について説明。

委 員：102項目の報告された指標の中には未測定のものもあるが、行政としてそのうち何割程度のものが前進していれば概ね順調と捉えるか目標設定はあるのか。

事 務 局：具体的な目標設定は設けていない。すべて達成できることが理想であるが、指標設定の妥当性についても一年経過し、少し疑問のあるところも出てきているようなので、次回の基本計画の策定の際には見直さなければならない。施策ごとの中で、全ての指標が良い結果になっていない場合は何らかの問題があるものと考え

られ、一方ですべての指標が良い結果となっている場合、予算をかけ過ぎていることなども考えられる。バランス良く進行していることが最善と考えており、数値的な目標は設けていない。

委員：市民に向かって「健康創造都市」の進捗をアピールする場合、何らかの形で結果を示していけるものをつくる必要があるのではないか。

また、ボランティアの登録者数が増えているとの報告があったが、単に登録者数が増加だけでなく、その登録者がどの程度ボランティア活動に貢献しているのかが大切である。登録した方々を積極的に活用していく方策を検討するのが行政の使命であり、登録者の数だけでは成果を計ることが難しい。

事務局：確かにこの数字だけでは大切な部分は分からない。形として指標値をお見せしながらも、中身についてはどうなのかということを所管部で説明できるようにしていかなければならない。

委員：ボランティアとして活動を行っても、実際のところ、参加者が少なく、がっかりすることも多い。登録者自身に意欲があっても、その意欲を阻害する要因も非常に多いと感じる。できるだけ多くの人が集まる場所でポスターセッションを行うなど、何らかの改善を加えていかないとなかなか上手くは行かない。

会長：量として計れるものもあるが、量ではなく質が大事だということもある。指標の評価というものには、数字が上がった、下がったということが大事なのか、それによって世の中どうなったのかということが大事なのか、アウトプットで見るのか、アウトカムで見るのか、という問題が常に付きまとう。試行錯誤しながらではあるが、見せ方として指標化する工夫をすることで、もう少し質的な、あるいは内容に即したものを見せることができる場合がある。また、実体としてすべて良い方には行かないというところが出てきている。それが本当に悪い方に進んでいるのか、改めて検証してみる必要がある。数字が上がったから、下がったからといって、そのまま廃止、縮減というのは訳にはいかない。そこを評価のシステムとして、3年ぐらいかけて確立していく必要がある。

事務局：数字だけでは、本質的なところまでは見定められないと考えている。数字もひとつの材料として、施策の進行管理の中で、担当しているセクションがどの様にこの数字を読んでいるのか、その結果、どうする必要があるのかということを進行管理シートの中に記載し、総合計画審議会に報告していく。

委員：計画策定時から、これらの指標がいろいろな面で成果を代表する指標となっているのか疑問があったところだが、あらためて報告を受けるとこれらが成果を計る指標として適切ではないと思われるものがいくつか散見される。行政におけるトータルのパフォーマンスを計る際には、市民の行政に対する満足がより高まったかどうかということになる。個別の指標だけを追いかけるのではなく、トータルの行政パフォーマンスが市民にどう評価されたのかを計測する予定はあるのか。

事務局：計測するとすれば、健康創造都市という大テーマについてどうだったのかということをも市民に諮ることとなるが、今のところ、具体的な計測の手法などのイメージは高まっていない。政策評価といった、もう少し高い位置での評価を実施して

いる自治体もあるかとは思いますが、大和市においては、施策評価に踏み出したばかりであり、46の施策、少なくとも個別目標レベルでの評価について考えている。今後、審議会で議論いただきながら、検討することになると思う。

委員：成果を計る指標は全部満たされたが、市民の満足はむしろ下がったというような状況も考えられる。その場合、「一体何をしたのか。」ということになりかねない。市民がこうあって欲しいというものを指標にした訳ではなく、行政の側で自分達が頑張っているというものを指標としているので、これだけで総合計画の成果を計ることができるのかという疑問が残っている。

事務局：施策の進行管理にあたっては、これらの数字だけではなく、補完的な指標も所管を通じて設定していく。数字だけではどうしても計りきれないところがあるため、数字はひとつの参考としながら、定性的にどのようなことが言えるのかといったところも文章等で示していきたい。

会長：数字というのは実績として出てくるものであるが、評価というのは量だけではできないと思われる。そのズレ、量と質の差というものは、常に付きまってくる。試行錯誤しながら、進めていかなければならない。この様なことをやっても無駄だというのではなく、実体がどうなっているかということを見るのが当面は大きな課題である。特に休日夜間診療の数字などは、こんなに数字が増えているから施設がもっと必要になるという対処療法ではなく、そんなに急患が増えるのは健康創造都市と逆の方向に進んでいるとも考えられ、本来、病気にならない取り組みが必要ということがある。アウトプットとアウトカムとの関係を常に睨みながら、評価をしていかなければいけない。

③その他について

会長：事務局より資料について説明をお願いしたい。

事務局：資料3-1、資料3-2について説明。

会長：現在、行政の内部で作業に取り組んでおり、次回の審議会で示される資料とのことだが、46の施策の中で緊急度の高いものから、タイムリーに確認していくということ。何か質問はあるか。

委員：たとえば、児童館における子どもの利用者数と、放課後子ども教室での参加者数とでは、放課後子ども教室事業が充実してくるほど、児童館に通う子どもの数が減ってきてしまうと思われ、不整合が発生してくるのではと危惧する。さらに、休日夜間診療に関していうと、利用者数の増減による指標だけでは不適切ではないかと思われる。施設に行ってから診療を受け、帰るまでの時間がどの程度であったかなど、今の段階で指標の取り方を変更できるのであれば変更すべきと考える。また、数字の取り方に関し、いろいろな施設ごとに入場者数のカウントが異なる現状は、数字を基に成果を計っていくのであれば、全市的に統一的で信頼の持てる利用者数の挙げ方を整えるべき。また、最終の目標値が出る際にあっては、休館状況などによって数字が変化するような指標については不備があるので、今の段階で計算式についてもう一度精査すべき。

- 事務局：放課後子ども教室の実施日が児童館の休館日である月曜日と授業時間の短い水曜日となっているが、今後はその関係についても整理していかなければならない。
- また、休日夜間診療等に関しては、どの様な計測の仕方が最も好ましいのかということを含め、伝えるべきことは所管部に伝えたい。検討していきたい。
- 委員：審議会等における女性委員の割合などについては、割り当てを設けて登用していくべきではないか。結果的にその通りとはいかないかもしれないが、意識的に取り組んでいく必要がある。また、全体的な評価についてとなると、市民意識調査の中で市政全般に対する満足度というものを採用してはどうかと思う。行政としては非常に勇気のいることだと思うが、国政レベルでは内閣支持率など典型的に出る。ある意味、選挙がそれに代わるものかもしれないが、4年に一度では少ない。市政についていうと、トップにいる市長の評価と、もうひとつ行政に対する評価もある。全体として、健康創造都市に向けて進展がみられるかどうか程度の大雑把な評価項目でよい。
- 委員：次回、資料3-2の参考例にあるよう審議会の意見をまとめていくこととなると思うが、玉虫色の記述とならないようにするためのアウトカムのデータが少なく、効果的であったのかどうかということが分かりにくい。行政の見える化ができる資料が附属資料としてあった方がよい。その結果、踏み込んだ提言もできることになる。特に健康とか、医療とか、教育はすごくミスマッチが多いと市民意識調査にもでていた。そこで健康創造都市を目指し、どのくらいの人々が健康に満足しているのかというアウトカムが重要になる。
- 事務局：アウトカムになればなるほど、施策を少し大きく捉えていく必要がある。計測できるものは、できるだけ報告させていただく。全体的な評価について、市民意識調査などで計れないかとの話については、今後検討していきたい。
- 委員：企業活動におけるパフォーマンスの悪い企業というのは、一所懸命やっていないのではなく、ピントがずれたことをやっているもの。企業においてはそれがマーケットによって計測されてしまうが、行政の場合にはそこがうまくいかない。「市民のためになっているか。」ということは計り難いが、何かやらないといけない。
- 委員：各委員が言われることは確かであるが、いまずぐにアウトカムの指標を採るといっても難しく、23年度に意識調査をやるとのことなので、それまでに考えていけばよいと思う。むしろ今回の資料の中で気になるところは、指標はあくまで代理指標ということであり、これだけで何かを見ようというのではない。取り組み内容の下にある実際の事業が連動して見えないと、具体的な取り組みが見えず、施策の評価につながらない。資料の作り方はとにかく、分かるようにしていく必要がある。なお、それらの事業については、事務事業評価を実施しているので、事務事業評価の結果も併せて提示してもらいたい。
- 委員：いまはPDCAサイクルのPの段階だと思う。Cのやり方についてもいろいろな方法がある。それによってはAも変わってくる。PDCAの形で考え方をまとめたらい。

会 長：資料３－１、３－２の裏面にある「来年度の展開方針」において、新規、拡充、廃止などの事業について記載されるが、トータルとして、この「めざす成果」を達成するために、どういう事業があるのか。具体的にこのロジックを展開するための全事業名があつて、そのうち拡充するのはこれ、廃止するのはこれといった形で表記し、これらをあわせて見てはじめて全体像が掴める。全体像を示す事業一覧を表示できる工夫をして欲しい。また、アウトカムについては捉え方が非常に難しく、数字で表すのはちょっと無理かもしれない。アンケートで個別の事業について聞いても市民は良く分からない。アウトカムとして「世の中、どう変わってきたか？」、「去年に対して今年は、この分野についてどうなったのか？」などを淡々と聞いていくことが、総合評価に繋がる。アンケートによる市民の評価を取り入れる手法を工夫・検討してほしい。

事 務 局：多くの意見をいただいたので、対応を検討していく。一番大切なのは、数値を含めて市民満足度を計り、そして市民を満足させるためどの方向を向いたらよいのかを検証すること。行政として一番気をつけなければならないことは、数値が得てして行政の自己満足度調査になったり、単にエクスキューズの調査、数字になってしまうことである。数値も社会情勢によって求められるものが変わってくるもので、それにも対応していかなければならない。社会の状況、市民の要望にあわせた数値の取り方を臨機応変にやっていかなければ、実体を掴みきれない。市民目線をできるだけ活用したデータを提供させていただくので、よろしく願いしたい。

会 長：他に意見がなければ議事については終了することとする。

【その他】

会 長：今回で退任される３名の委員から一言ずつ御挨拶をいただきたい。

（山崎委員、貝塚委員、菅沢委員より挨拶）

会 長：その他、事務局から何かあるか。

事 務 局：次回は８月のお盆明け頃に開催したいと考えているので、会長と調整し、連絡させていただく。